

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
可児市南西地区

平成24年3月

岐阜県可児市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4 - 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	幹線道路沿線騒音値	dB	71	68	66	確定 見込み		あり なし				改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	車道舗装を排水性舗装とすることで、騒音が低減され、生活環境問題の解決に貢献した。
指標2	団地内通学路の歩行空間整備率	%	22	50	81	確定 見込み		あり なし	81	H23年8月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	団地内通学路の歩道整備により、高齢者や年少者にとって安全・安心な歩行空間を確保できた。
指標3	公園利用者数	人	43,700	63,000	78,400	確定 見込み		あり なし	65,802	H23年8月	評価値の見込み計測が甘かった	改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	公園周辺道路整備による車アクセス及び歩行者導線の向上により利用者数が増加した。
指標4	安心して防災施設を利用できる人数	人	1,050	4,050	4,050	確定 見込み		あり なし				改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	消火栓の設置数が基準に達し、避難所に備蓄倉庫が完備されたことにより、地区の防災力が向上した。
指標5	受益戸数	人	0	10	10	確定 見込み		あり なし	9	H23年8月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	不安定な水道施設を介さず、パイプ管を設置することで、安心安全な上水道の供給を行うことができ

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4 - その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	歩道の歩きやすさに対する住民評価度	%	-	/	90	確定 見込み	/	/		H 年 月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	団地内歩道付き通学路の整備水準を上げ、安全な通学路を確保できたこと等の住環境の安全性について、住民の評価より確認できた。
その他の数値指標2	防災備蓄倉庫設置による生活安全度住民評価度	%	-	/	71	確定 見込み	/	/		H 年 月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	備蓄倉庫完備の避難所整備により地区内住民が安心して避難でき、防災性が向上したことを、住民の評価より確認できた。
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/		H 年 月		改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	道路における騒音等の発生抑制	本計画の対象外区間においても、継続して排水性舗装を実施した。	排水性舗装区間の延伸に伴い、騒音の低減区間を広げることができた。	排水性舗装の減音効果を持続させるため、舗装の維持管理(目詰まり等の解消)を確実に実施していく。
	安全・安心な歩道確保	地元ロードサポーター活動により、歩道の保全活動を実施した。	地元ロードサポーター活動により、歩道の除草、清掃、危険箇所の通報などを実施し、良好な歩道空間の確保が維持できた。	今後も事業を継続し、歩道付き通学路の未整備区間全ての改善を目指す。
	公園機能の充実と利用促進	可児川下流域自然公園へのアクセス道路について、交差点改良工事が完了した。	11月に交差点切り替えを実施したことにより、公園へのアクセスが容易となり、公園利用の促進がはかれた。	運動公園のテニスコートにH24年度中に共用開始することにより、公園利用者の増加をはかる。
	地区の防災力の向上	自治会ごとの防災ハザードマップを作成。	地域特性に沿った防災ハザードマップを作成することにより、防災意識の向上がはかれた。	今後も市民の防災意識向上にむけてPRする。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	路上駐車増加	交通安全協会を通じて路上駐車禁止の注意看板を設置した。	路上駐車に対して注意喚起がはかれた。	今後も交通マナーの啓発を行う。
	歩道の拡幅方針の検討	幅員の確保できる歩道の舗装修繕の場合は、防根シートで街路樹の根の周囲を覆うことにより、将来的に歩道舗装に根の影響が及ばないような方策を検討した。	他地区における歩道改修工事で、舗装修繕に合わせて防根シートを設置することにより、街路樹(桜)を残すことができた。	今後も地域との話し合い、連携をはかりながら、街路樹の良好な保全に努めていく。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(清算報告)

かにしなんせいちく
可児市南西地区

ぎふけん かにし
岐阜県 可児市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	可児市	地区名	可児市南西地区	面積	931 ha
計画期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度

目標 大目標: 住環境を再生し安心・安全・潤いのあるまちづくりを目指す 目標1 まちづくりの基本性能である安全性やバリアフリーに配慮した住環境づくり 目標2 やすらぎと潤いや健康増進に資するレクリエーション・アメニティ・機能の向上

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <ul style="list-style-type: none"> ・当地域は名古屋から1時間以内の通勤通学圏にあることから名鉄西可児駅を中心に昭和40年代後半から急速に住宅団地が開発されてきた。 ・現在大規模な住宅団地は名鉄西可児駅を中心に7カ所があり、定住人口は20,000人を超える状況でDID地区となっている。 ・名鉄西可児駅の1日の乗降客は7500人を超える状況であり、駅周辺は西可児土地区画整理事業による商業施設の集積地として活発な商業活動を展開している。 ・平成15年に西可児駅前バリアフリー基本構想を策定し、駅周辺のバリアフリー化を進めている。 ・可児市第三次総合計画では住みやすい快適環境都市づくりの目標を掲げているが、当地域内の団地では「市民参画と協働のまちづくり条例」に基づく協議会が発足し、住民主体の快適なまちづくりへの機運が高まっている。
課題 大規模な住宅団地が集積している当地域の住環境を快適にするため以下のような課題が上げられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋へのアクセス道路として、交通量の大幅な増加に伴い、団地内の通過車両が多く、様々な生活環境問題を引き起こしている。 ・丘陵地での住宅団地が多いことから起伏のある道路環境は、今後高齢化社会を迎え、安全、安心な歩道確保が急務となっている。また、年少者の安全な通学を確保するため、通学路の歩行空間整備が求められている。 ・地域の住民は高齢化を迎えようとしており、健康増進や安らぎを求めて公園機能の充実やアクセス性の向上が要望されている。 ・消火栓の設置数が基準に達していないので、地域住民の安全確保を図るため早急な整備が必要である。
将来ビジョン(中長期) 当地域については低層住宅団地を中心として暮らしやすく、住み続けられる生活環境を形成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・可児市都市計画マスタープランにおいて住宅地や駅周辺ではバリアフリー化や歩行空間の確保等により、生活の利便性の向上を図り良好な住環境を保全することとしている。また、可児川下流域自然公園や可児市運動公園を市民のスポ・ツ・レクリエーションの拠点に位置づけ、整備を促進するとともに利用者の利便性に配慮したアクセス道路の設置を進めることとしている。 ・可児市第三次総合計画では各地域ごとの現状と将来予測のもと、消火栓・防火水槽の整備を進め、防火機能の充実を図ることを掲げている。

目標を定量化する指標								
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値		
					基準年度		目標年度	
1 幹線道路沿線騒音値	dB	団地内における幹線道路沿いの騒音値	幹線道路沿いの住宅団地の騒音値が高いことから、住環境の向上を図る。	71	平成16年度	68	平成22年度	
2 団地内通学路の歩行空間整備率	%	団地内通学路の内、歩行空間が整備された率	団地内通学路の歩行空間整備率を高めることにより安全性の向上を図る。	22%	平成16年度	50%	平成22年度	
3 公園利用者数	人	可児市運動公園利用者数	レクリエーション機能及びアクセス性の向上により、公園利用者数の増加を図る。	43,700	平成16年度	63,000	平成22年度	
4 安心して防災施設を利用できる人数	人	地区内の指定避難所の防災機能を充実させる計画に基づき、備蓄倉庫を整備することにより安心して防災施設を利用できる人数	備蓄倉庫の設置により防災機能を向上し、被災時に安心して避難所を利用できる人数の増加を図る。	1050人	平成16年度	4050人	平成22年度	
5 受益戸数	戸	安定した給水を受給できる戸数	安定した給水を行うために減圧弁を撤去してバイパス管を設置し、安心安全な住環境を整備する。	0戸	平成16年度	10戸	平成22年度	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(道路機能、防災・防火機能、ライフライン機能の向上による住環境の改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水性舗装による騒音の低減 ・通学路の歩行空間整備及び駅周辺のバリアフリ - 化による、安全で快適な道路環境の実現 ・消火栓・備蓄倉庫の適正な配置や橋梁の耐震補強による地域防災機能の向上 ・上水道の減圧弁調整による不安定な給水区域の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・西可児駅前バリアフリー基本構想整備事業(関連事業、市) ・交通安全施設等整備事業(関連事業、市) ・市道50号線(基幹事業) ・市道30号線(基幹事業) ・市道38号線(基幹事業) ・市道8170号線他4路線(基幹事業) ・消火栓整備(基幹事業) ・西可児大橋耐震設計(提案事業) ・備蓄倉庫整備(基幹事業) ・水道施設整備(提案事業)
<p>整備方針2(レクリエ - ション・アメニティ - 拠点の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テニスコート・野球場等の増設による運動公園レクリエ - ション機能の向上 ・運動公園、自然公園の進入路や駐車場等の整備による利用者の利便性向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・可児市運動公園整備事業(関連事業、市) ・市道7019号線他2路線(基幹事業) ・市道6146号線(基幹事業) ・可児川下流域自然公園(基幹事業) ・市道144号線(基幹事業)
<p>その他</p> <p>花いっぱい運動について 良好な公共空間を創造するためには市民参加の活動が必要不可欠な時代となってきたことから、年2回、春と秋に市民全員で歩道の清掃や花壇の植栽などを市内全域にわたり一斉に行う活動を継続的に実施している。</p> <p>ロードサポーター制度による奉仕活動への補助対応について 平成17年度より開設された制度で、地域の道路除草、ゴミ拾いなどを各地域で有志を募って参加して頂き、地域でできることは協力して頂き、地域環境を整備しており、今回の歩道空間整備によりサポーターの意欲が高まる事を期待し、今後も積極的に支援していく。</p>	

